



ボイラ設備染色導入による製造環境改善

丸正織物工房

生産量の増加及び品質面での色ムラの改善も含めボイラ設備等を導入し、染色機を活用した工程にて実証したところ生産量が4倍見込めることが確認された。また、色ムラについても鍋染めと比較して1/3の発生率であった。

導入前の課題

課題

当事業所は、「琉球かすり」「南風原花織」の織物を製造している。これらの織物は、100年以上の歴史があり、国の伝統的工芸品に指定され、南風原町が産地指定されている。工程は図案から織り上がりまで約30工程ほどあり、約9割を手作業で行い、平均2ヶ月ほど要する。課題としている工程の「染色」も手作業で行っており、手染めによる色ムラやシミを防ぐため、職人が2~3時間かけて糸繰りという方法で色ムラを防いでいるがロスも10~15%ある。1回の作業で1kgの染色しかできず、受注量も増加傾向にあるが、対応できない可能性がある。

補助事業での取り組みと成果

取組と
成果

課題解決のため、既に譲り受けた中古の染色機に温度を上げるためボイラ設備を導入。染色環境の改善、品質の向上について検証を実施。ボイラ設備染色での最大染色量1回あたり3kgとなる。糸干しまで1時間24分で完了することが確認できた。導入前後を比較するため染色量を3kgとした場合、6分の1以下の時間で作業が完了することが確認できた。品質面については、200gを鍋・染色機と三回ずつ染色。ボイラ設備染織では約10%の染めムラが発生したが、従来の3分の1以下に抑えることができた。今後も、引き続き品質の改善を進めていく。



ボイラーの温度を上げ染色していく



伝統工芸の特徴を生かした小物



製品となった反物



店舗外観

補助事業後の展開

現在の生産量は年間 500 反だったが、さらなる生産増と今後の注文にも対応できる。ボイラ設備染色が可能となったことで、ボイラ設備染色が 8 割、手染が 2 割程度の比率になり、原料糸の安定供給体制が整うことになった。これまで、ネクタイや財布など小物類の制作、販売をしていたが、今後はこうした新市場への取組みも強化していきたい。また、高齢で染色が難しい職人の外注も積極的に受け、産地全体の発展に貢献していきたい。

With コロナ、After コロナにおける取組

織物の製造としては、長期間にわたる製作期間があるため特段の影響はなかったが、卸から先の売り先で影響があったため、卸数量の分配で対応を行っていた。コロナ禍で、卸を介した取引に依存することで売上へ影響する可能性があるため、直売や EC による販売を増やしていきたい。そのために、インスタグラムをはじめとした SNS で情報を発信し、着物ユーザーのコアファンを獲得することで、直接取引に繋がりたい。



代表 大城 幸司

会社概要

事業者名：丸正織物工房

代表者：代表 大城 幸司

住所：沖縄県島尻郡南風原町字本部 31

従業員数：4 人

電話：098-889-6288

FAX：098-889-6288

設立年月日：平成 26 年 1 月 1 日

業種：その他の製造業

URL：<https://www.instagram.com/marumasa.fab/?hl=ja>
：<https://www.facebook.com/marumasa.fab>